

総合部会

研究主題

生きる力をはぐくむ「総合的な学習の時間」の創造 ～探究的な学習を通して～

1 主題について

身に付けさせたい力を明確にし、探究的な学習を通して自己の生き方を考えるとともに主体的に生きる力をはぐくむために、本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成
11月7日	第2回総合研究会 授業研究会（大館第一中学校） 年間指導計画の情報交換

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月7日（水）
- ・会 場 大館第一中学校
- ・単元名 「見つめようふるさとや社会を語り合おう自分の夢・思い」
- ・授業者 全職員
- 田中 覚（全体・進行）
- 各学年活動プロジェクト部員

① 授業者から

- ・「課題→体験→収集→処理→思考→気付き→表現」の流れで学習を行ってきた。自己の生き方を考えることがゴールである。テーマは、学年ごとに設定している。
- ・今日の集会は、代表者の発表から自分の活動を振り返り、これからの自分について考える場である。その手立てとしてパネラーを設定した。
- ・大館市の「ふるさと・キャリア教育」を基にして年間指導計画を見直した。1年生でふるさとに立ち返って学ぶ学習を取り入れ、また3年生では東京で学んだことを基にふるさと大館への提言という形でまとめるようにした。

② 協 議

- ・1年生は、追究する分野を限定しないということだったが、その理由は？
→1年生は、学び方を学ぶことがテーマである。まずは、大館市を探訪し、大館市を知る。その後、自分自身の興味・関心のあるところから課題を設定し、そして追究していく。そこで興味・関心をもったことを2年生での学びにつなげていくようにしている。
- ・課題意識をどのように掘り起こしたのか。
→学び開きとして全校で「夢」をテーマにした講演会を行った。その後、学年ごとに「夢」をもつことについて生徒たちに下ろし学習をスタートした。
- ・生徒たちの表現力、伝える力のすごさを感じた。探究する活動が連続しているからこそ、生徒たちは堂々と語ることができる。また、そのことがキャリア教育にもつながっていくのだと思う。生徒たちが作成したレポートを今後どのように活用するのか。
→現在、学習室に掲示している。全レポートを印刷し、次年度に資料として活用する。

- ・パネラーはどのような位置付けなのか。
→一方的な発表では話し合いの深まりは弱い。
発表者とパネラーのやりとりを聞くことでより深く知ることができ、考えることができる。
- ・パネラーの意見について、フロアにいる生徒にも呼びかけをすればいろいろな意見が出され深まりが出たのではないか。
- ・本時の評価にあたる部分として、2つ目についてはどのように評価しようと考えているのか。
発表して終わりではなく、自分の生き方について振り返りながら自分のこれからを考えることが大切になるかと思う。
→課題設定の時から振り返りカードをつけている。それをもって評価をする。



【パネラーの意見を聞くことで考えを深める】

(2) テーマ研究（各校の年間指導計画の情報交換）

- ・1年生の調査、研究活動に使う時間が少ない。少ない分、他の教科で内容を補うことができるように、年間指導計画を組み替えている。
- ・キャリアレポートを作って自分の生き方を振り返ることができるようにしている。また、ふるさとについて考える場も設定している。
- ・外部の人とのかかわりも含めて計画を立てている。

(3) 指導助言（檜森 秀樹 指導主事）

- ・1年、2年、3年と広がりが見られ、最後の3年生でふるさとに戻っている。自分自身にかかわるところだけでなく、3年生の発表には、他者や社会とのかかわりに関する内容や地域にかかわる提言も含まれていてよかった。
- ・学び方や生き方を意識させ、そして身に付けさせることが大切である。課題解決のどこに重点を置いて力を付けていくのかを考えて指導に当たりたい。
- ・課題解決力、学び方、生き方を捉えさせるための手立てや工夫として、自分のよさを振り返る時間、みんなで学び合う時間、疑問に思ったことを調査する時間、発表・共有して次に向かっていく時間をバランスを考えて配分する必要がある。
- ・小学校と中学校で活動している内容を把握し、重なりがないようにしたい。また、小学校での発表内容、発表レベルについても中学校では把握してほしい。
- ・中学校3年生までにどれだけ多くの大人とかわらせるかが大事である。総合的な学習の時間を通して、将来についてイメージをもち、自分の生活を振り返るきっかけとさせたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・各校の年間指導計画を交流し合うことで、見直すポイントが明らかになった。1年生の総合のもち方を工夫し、大館市のふるさと・キャリア教育を意識した計画を立てることを確認できた。
- ・自己の生き方を考えるということはどういうことなのかを学ぶことができた。また、そのための手立てについても一中の実践を通して学ぶことができた。

(2) 課題

- ・1年生の時数が2、3年生とは違うことで全校体制での学習がしづらくなっている。さらに3年間を見通した系統的な計画を立てていくことが必要となる。